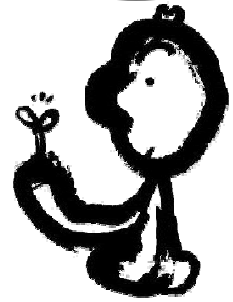


しみん基金・KOBÉ

第13号

2007年6月発行

NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203(サンピア2F)
TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786
e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

「しみん基金こうべ」は希望の星である

「しみん基金こうべ」は希望である。震災で生まれた NGO/NPO などの市民活動を財政的に支援するために生まれた。

どんなに優れたミッションを持っていてもそれを実現するための組織や事業を遂行するための財政的な基盤をもつことが必須である。行政の助成、企業の支援、事業による収益、市民からの寄付などがバランスよく構成されることが大切である。

震災直後はそれなりの支援があり、復興基金やコミュニティー基金などもあった。NGO/NPO が新しい公共を担う使命を帯びて出発したことが本来、市民社会の希望であり、これらの活動を支援する「基金」こそ「民が民を支える」シンボルとして期待されてのスタートだった。

では、この希望は果たされているのか。残念ながら未だ星の輝きは弱く、時に雲間に隠れて見えない。助成事業を本旨とする以上は寄付を集めることが第一で、新しい寄付の文化の開拓者でなければならない。そのためには高い理念と高い目標を掲げよう。このシステムは全力をかけても育てるに値する事業であると思う。その意味では被災地の良心が、神戸の NGO/NPO の力量と覚悟が問われている。

しみん基金こうべの活動はここへきてようやく停滞を脱した感がある。しかし必要なのは改革のスピードである。「寄付」を「お願い」や「集める」と思っていたら発展はない。夢や希望に託されるもので、情報公開をして語りかけ、信頼を得ていく以外にない。社会を支えていくお金は激しく循環している。「しみん基金こうべ」という誇るべきシステムが十全に機能するための検証が必要だ。現在の助成額300万円/年は最低でも500万円にすべきです。高い理念を掲げ、目標をもって、そこへ向かってゆくアクションプランを具体的に策定し、チャレンジしてゆかねばなりません。「徹底した情報提供・開示」「ファンドレイジングの専門手法の開拓」を迅速に行うべきでその取り組みを実行するため組織の見直し、事務局の充実をはじめ必要なことはすべて積極的に取り組むべきです。現在のペースで10年やっても3千万円の支援を三千万円のコストをかけてやるに過ぎません。これでは有効な中間支援といえません。

私は芸術文化というフィールドで支援活動をしています。1992年に設立した(公)亀井純子文化基金、震災を契機とするアート・エイド神戸、2000年にアート・サポートセンター神戸、2003年に提案したのが「ぼたんの会」です。いずれも制度を作ったわけで、その制度が有効であれば自然に機能していきます。(公)亀井純子文化基金は15周年を迎え、次なる計画を立案しています。新しい寄付の文化への挑戦です。神戸の NGO/NPO は「使命」を語ることはあっても財源を語る事が少ないように思います。そこを真剣に取り組まずに補助金や事業委託をあてにするのは本末転倒です。「使命」と「財源」は表裏一体のもので、市民意識の改革・教育・普及の最も有効な手段が「寄付の文化の創造」です。身銭を切ること学ぶことは古来からの鉄則なのです。

アート・サポートセンター神戸 島田 誠

特定非営利活動法人 しみる基金・こうべ 平成19年度定時総会報告

去る 5 月 29 日(火) 16:00 より、コムスタこうべ 305 号室にて平成 19 年度定時総会を開催しました。出席会員数は 31 名(うち委任状 19 名、正会員総数は 45 名)で、平成 18 年度事業報告並びに決算報告、平成 19 年度事業計画並びに予算計画について審議し承認されました。要点は以下のとおりです。

平成 18 年度事業報告並びに決算報告

2 年ぶりに助成事業を実施し、9 団体に総額 300 万円の助成金を交付しました。

昨年度は事務局スタッフを雇用したにもかかわらず単年度黒字で決算できたのは、しみる事業サポートネットワークや毎日新聞神戸支局等から新規にまとまった金額の寄付を受けたこと、賛助会員が増えたことによります。

平成 19 年度事業計画並びに予算計画

今年度も昨年同様に助成事業(総額 300 万円予定)を実施します。

社会貢献意識の向上をめざした講演会事業を計画しています。

情報発信と運営基盤の強化及び新規事業化研究に取り組む予定にしています。

平成 19 年度事業計画

- 1 寄付受入・募金活動
 - ア) 直接寄付(指定寄付、冠基金等)
 - イ) イベント募金(ぼたんの会等)
 - ウ) 職域募金(あじさい基金)
 - エ) 協働企画寄付システム(リサイクル寄付事業等)
- 2 助成事業
 - ア) 本体助成事業
 - イ) はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業(= 受託事業)
- 3 啓発事業
 - ア) 講演会事業(「こころ・いのちを見つめる(仮称)」)
- 4 運営管理業務
 - ア) 広報(ホームページ、ニュースレター等)
 - イ) 文書管理(定款改訂・規程類策定)・情報環境整備
 - ウ) 事業化研究・スタッフ研修
 - エ) ネットワーク活動
(ひょうご・コミュニティ・ファンド・ネットワーク等)

平成 18 年度収支決算

< 経常収支の部 >	
【経常収入】	7,657,463
事業収入	600,000
会費収入	1,022,000
寄付金・募金収入	5,999,417
その他の収入	36,046
【経常支出】	6,293,518
事業費(助成事業)	3,161,562
管理費	3,131,956
経常収支差額	1,363,945
【その他資金支出】(備品購入支出)	389,655
当期収支差額	974,290
前期繰越収支差額	18,414,514
次期繰越収支差額	19,388,804
< 正味財産増減の部 >	
【正味財産増加の部】	1,366,773
【正味財産減少の部】	256,830
当期正味財産増加額	1,109,943
前期繰越正味財産額	43,696,564
当期正味財産合計	44,806,507

平成 19 年度収支予算

【経常収入】	6,223,000
会費収入	1,000,000
寄付金・募金収入	5,100,000
その他の収入	123,000
【経常支出】	6,440,000
事業費	3,174,000
管理費	3,266,000
経常収支差額	- 117,000

これまでの正会員の皆様のご支援・ご協力に深く感謝いたします。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

平成18年度助成事業成果報告会のご報告



5月29日(火)17:00から、定時総会に引き続き昨年度助成事業の締めくくりとして助成先団体による成果報告会を開催しました。これは、各団体の事業によって得られた社会的な成果を、寄付提供者や審査のプロセスにご協力いただいた皆さんと共有する、市民活動など民間による公益的活動を市民自らの力で支えることの大切さを分かち合い、今後に向けて改善すべきポイントを導き出す、ということをねらいとし、各団体に発表していただき自由に意見交換する場を持ちました。

各団体の熱心な報告をお聴きして、身近なところに社会を良くしようと活躍している人々がいらっしやることが実感できて、あらためてこの助成事業の社会的使命に想いを巡らせるひと時を過ごすことができました。各団体の事業による成果とメッセージの概要は以下のとおりです。当基金へご寄付を頂きました皆さま方及び当基金の運営を支えていただいている会員の方々のおかげで、このような地域における暖かい事業を展開できましたことに、改めて心より御礼申し上げます。

助成先団体の事業成果（概要）とメッセージ（抜粋）～ご寄付はこのように活用されました。

1 神戸 川と海を考える会（神戸市東灘区） 助成金額：¥500,000

事業名：みんなで育てよう!!あまもっち2

<事業の成果> 様々な方々のご協力により育苗キット作成から住吉川河口部におけるアマモ移植作業を行うことができ、流出することなく定植することができた。

<メッセージ> この事業を通じて、地域の方々に喜んで参加して頂いたことが本当に嬉しかったです。これからの課題として基本である生活排水の見直しを各家庭へ訴える地道な活動や「温暖化問題」を考える環境への意識を高める活動等をしっかり行なっていくことの重要性を痛感しました。



2 社会福祉法人 シティライト（神戸市兵庫区） 助成金額：¥350,000

事業名：あらたエコフェスタ

<事業の成果> 障がい者の社会参加、エコ意識の向上、商店街を巻き込んだ地域との交流の3つの要素をお祭りを通じてひとつにまとめることができた。

<メッセージ> 普段は静かな荒田公園が多くの来場者で溢れかえり、様々な立場の方々のご協力のもと多くの皆さんに喜んでいただき、シティライトのメンバーも仕事のやりがいを感じる事ができました。

3 三木自然愛好研究会（三木市） 助成金額：¥150,000

事業名：環境愛護事業「ふるさと公園フェスティバル」

<事業の成果> ふるさと公園の自然環境への理解とふるさと公園が市民の財産であり市民全体で守るべき文化的資産であることを訴求できた。

<メッセージ> 児童学習発表や様々な体験教室などを通じて、願いであったふるさと公園に親しみ・愛着を持って守る目的への理解が深まり、にぎやかで楽しい事業として盛り上がりました。まだ小さな芽ではありますが、大切に育てていきたいと思っています。





4 特定非営利活動法人 フードバンク関西（芦屋市） 助成金額：¥500,000

事業名：余剰食品の有効活用による非営利福祉団体支援事業

<事業の成果> 食品関連企業から定期的には4社から、不定期に2社と1団体から余剰食品を引取っているが、この半年間で取扱量が約35tまで増えた。受益者として余剰食品を受取り食品として活用する団体は26ヶ所。将来的にはひとつの社会事業として成り立つ可能性を感じられるようになった。

<メッセージ> 今後も収益基盤づくりという課題を解決しながら、食べ物を大切に、余剰食品を有効活用することで非営利福祉団体を支援し、合わせて環境保全にも貢献できるように、ボランティア一同力を合わせて邁進していきたい。

5 朗読ボランティア ことばの花束（神戸市中央区） 助成金額：¥170,000

事業名：視覚障害の方への「テープ」制作

<事業の成果> 助成金でMD録音機などの最新ツールを購入し、品質が向上し、編集作業などの作業の効率化が実現し、その分内容の充実化を図ることができた。

<メッセージ> 今回助成金を受けることで、取材や録音・編集など個人に負担のかかる作業が軽減され、グループの活動範囲・回数も不安なく動けました。今後はよりいっそう良いテープをつくらうと心を新たにしています。



6 アジア女性自立プロジェクト（神戸市長田区） 助成金額：¥390,000

事業名：モバイル通信を用いた在住外国人の相談・サポート事業

<事業の成果> 地域に暮らす外国人住民が安心して生活していくための環境づくりが実現できた。

<メッセージ> 携帯電話ですぐに相談ができ、おまけに月2回の情報を得ることができるこの事業のおかげで、在日外国人は気軽に相談することができ、ケースによっては入管などへ同行したりして、いろいろな方の力を借りて一番良い解決法を考え、最後まで対応することができるようになりました。みんなの安心した声や表情がなによりで、今後はこどもたちへのサポートもできるように事業を継続していきたいです。

7 よりみちクラブ運営委員会（神戸市長田区） 助成金額：¥300,000

事業名：学齢期の障害児童に対する休日、長期休暇中の生活支援及び余暇活動支援

<事業の成果> 学齢期の障害児童9名に対して、毎週末と長期休暇中の余暇活動支援等を半年間で30日実施することができた。外出活動やレクリエーションを通じて他者との関係性を持つことができたり、コミュニケーション手段が増えたりと、障害児童1人ひとりの成長につながった。

<メッセージ> 障害児童は家庭で保護者がみるものという考えが根深くあり、特に母親の負担が大きいものになっています。この事業を通じて、こどもは障害のある・なしに関らず他人との関わりの中で育つことが実感させてくれます。障害児童が当たり前に出出して、同世代のこどもたちとともに過ごし、健やかに育つことができる社会になることを願っています。





8 未来をひらく・マブイ六甲（神戸市東灘区）助成金額：¥500,000

事業名：企業・NPO 法人との協働による障がい者就労支援

<事業の成果> 賃貸マンション巡回清掃を通して作業所に通所している障がい者の仕事づくりを、企業と近隣の障がい者作業所（施設）4箇所と協働で展開。この間、マンション清掃棟数を3棟から21棟まで増やすことができ、障がい者自身の収入も「障害者自立支援法」による利用料1割負担を超える金額が出せるようになった。

<メッセージ> 助成金のおかげで、マンション巡回清掃の協働事業が上手く立ち上がっていくことができました。当団体のメンバーへの給料も増やすことができ、他の作業所への仕事のあっせんもできるようになったことがとても嬉しいです。今後は、この事業の成果を受けれる障がい者の人数を増やしていく方向で仕組みの充実に取り組んでいきます。

9 兵庫県手話サークル連絡会（神戸市中央区）助成金額：¥140,000

事業名：県サ連「ブロック学習会」

<事業の成果> 助成金で購入したビデオ（DVD）で、普段接することの出来ないろうあ者の生きた手話・生きた体験談を鮮明な映像で録画できるようになり、繰返し学習や学習会へ参加できなかった人への貸出が可能となった。

<メッセージ> 聴覚障害者の社会参加の増加に伴い、それを支援する手話通訳者はこれまで以上に聴覚障害者の立場に立った支援を求められるようになってきました。手話は見る言語であって、手を含めた身体で語る言語です。生きたろう者との出会いやその手話を見ることが大切なのです。助成金でビデオを購入できたことでその生きた手話・生きた体験等を保存・活用することが出来るようになりました。



平成19年度しみん基金・こうべ助成事業実施のお知らせ

しみん基金・こうべの助成事業が、今年もいよいよ始まります。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも社会的課題の解決に取り組んでいこうとされる市民活動・ボランティア活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい、助け合っていこうとはじめたこの事業も今年で9年目を迎えます。今年度の特徴は、小規模な団体の自立をめざした活動を応援する少額助成の「草の根枠」が新規に設定されたことです。また、昨年度に引き続き、分野指定寄付に基づいた環境の保全を図ることを目的とする事業の為に「特定枠」が設定されます。概要とスケジュールは下記のとおりです。詳細は8月上旬に、当基金のホームページなどを通して発表いたします。

概要

助成金総額 300万円

・一般枠：1事業につき事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。助成総額は150万円まで（特に事業分野・使用用途の限定はございません。）

・特定枠：環境の保全を図ることを目的とする事業に限定。1事業につき事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。助成総額は100万円まで。

・草の根枠：1事業につき事業費総額の4分の3以内かつ上限10万円。助成総額は50万円まで。書類審査のみで決定。（特に事業分野・使用用途の限定はございません。）

助成対象

神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体

（法人格の有無は問いません）

助成事業実施期間

19年10月1日～20年3月31日

スケジュール

19年8月上旬：応募要領の公式発表・配布

19年8月下旬～9月上旬：申請応募受付

19年9月中旬：書類審査

19年9月下旬～10月中旬：ヒアリング調査

19年10月下旬：公開審査会・助成先の決定

19年11月上旬：覚書締結・助成金交付

20年4月末日：最終報告書類提出

20年5月下旬：助成事業成果報告会

夜会・ぼたんの会 vol.5

2007年5月18日(金)18:30から北野ガーデンにて、今年で節目の5回目を迎える「夜会・ぼたんの会」が開催されました。

今回は、ジャズピアノの安藤義則さんやバリ・ダンスの「チリ・デウイ」らをゲストに迎えて、お洒落な一夜を楽しんでいただきました。当日はかろうじて雨に降られることもなく、250名ほどの方々に参会いただき、旧懇を暖められたり新しい出会いがあったり、あちらこちらで和やかな輪が咲いていました。

なお、今回も収益の一部は、ぼたんの会実行委員会を構成する各団体を通じて市民活動やボランティア活動を支える資金として活用されます。たくさんの方々にご協力・ご参会いただきましたことをここに感謝いたします。



牡丹は、5月初旬に豊麗な花を咲かせますが、寒気にも強く、他の植物が冬季休眠中でも、すでに地中の根は活動を始め、その朱色の太い芽は遅しく、力が漲っています。また「ボタン」は、離れたものを繋ぎ合わせます。ふたつの意味を込めて「ぼたんの会」と名付けました。



「ぼたんの会」とは、文化を通じて新しい社会貢献(寄付の文化)のスタイル確立を目指して、地域の中で大切な役割を果たすように成長してきたNPO・NGOへのファンドレイジングを目的に結成された協働プロジェクトで、コンサートやパーティーなどを企画・開催し、その収益の一部を市民活動やボランティア活動を支える資金として活用するしくみです。当基金は、「ぼたんの会」実行委員会の事務局を担っています。

構成団体：(特活)市民活動センター神戸、(特活)兵庫県子ども文化振興協会、被災地NGO協働センター、(財)神戸学生青年センター、(特活)神戸まちづくり研究所、(特活)ゆめ風基金、(特活)しみん基金・こうべ、アートサポートセンター神戸、(特活)阪神高齢者・障害者支援ネットワーク、(特活)コミュニティサポートセンター神戸、(株)FMわいわい、移住労働者人権裁判基金、公益信託亀井純子基金、(特活)CODE海外災害救援市民センター
「ぼたんの会」実行委員会 代表 黒田裕子 ((特活)しみん基金・こうべ理事長)

はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業の結果報告

しみん基金 K O B E では今年度も引き続き、兵庫県遊技業協同組合・ラジオ関西・神戸新聞事業社で構成された”はぁ～とふるふぁんど委員会”より「ひょうごボランティアあしすと」支援プログラムの助成事務を受託しました。

平成 19 年 1 月 9 日(火)～2 月 28 日(水)までの申請受付期間に 156 件の応募があり、4 月上旬の”はぁ～とふるふぁんど委員会”の審査を経て、去る 5 月 18 日(金)に別表の 31 団体に支援金が贈呈されました。

平成 19 年度合格団体

No	団体名	No	団体名
1	みかげふれあい健康麻雀会	17	チャイルドライン神戸推進委員会
2	花田井郷中	18	コスモス作業所
3	南五葉ふれあい交流グループ	19	(特)にしのみや教育サポート
4	ピースフル共同作業所	20	にこにこボランティア
5	給食ボランティア会	21	あけぼの会 兵庫支部
6	芦屋市障害児教育研究協議会	22	ちゃいるど・じんちょうげ
7	苔谷楽しい体操の会	23	こどもの家 ひなたぼっこ
8	兵庫県絹人絹織物工業組合	24	(特)明石 NPO センター
9	(特)えんじえる会 えんじえる共同作業所	25	ボランティアグループ かよう会
10	芝居工房 来るくる座	26	西神自閉症児母の会
11	(特)愛ランド	27	ドングリネット神戸
12	(特)福祉ネットワーク西須磨だんらん	28	在日韓国青年同盟 兵庫県本部
13	子育て支援ボランティアグループ あ・そ・ぼ	29	西市民病院ボランティアグループ クローパー
14	18・ふれあい喫茶	30	高丘6丁目西 ふれあいサロン ひだまり
15	いなみ野学園 明友会	31	わっしょい わっしょい
16	だんごの会		

平成 18 年度合格団体から寄せられたお便り

はまなす(加古郡播磨町)

支援金により福祉レクリエーションの遊具を購入し、障がいのある子どもやその家族のレクリエーションや、障がいのある人のスポーツとして活用し、体力作りに生かしています。

体に重い麻痺のあるお子さんのお母さんが、「リハビリをしてもなかなか柔らかくならないのに、巨大な風船で遊ぶことで柔らかくなった」という声、ギブスをはめた子どもが風船を追っかけて思いっきり飛び上がっている様子などがみられ、遊びを通したりハビリに大きな効果を実感されています。今後も、障がいのある人もないひと、小さなお子さんもおかあさんも、ご高齢の方も、たくさんの人たちとのふれあいに活用したいと思います。

<リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法>

古着: オレンジスリフティ TEL 078-858-7090
〒657-0027 神戸市灘区永手町 3-1-208
オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・送付の際は、メモにて「リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家具・家電製品: しみん基金こうべ事務局
TEL 078-230-9774

- ・まずはお電話ください。提携先企業より係員を派遣して品物を確認させていただきます。
- ・家電製品につきましては、2002 年以降製造のものしかお取り扱いできません。ご了承ください。
- ・再販売できるものが対象ですので、状態によってはご協力いただけない場合がございます。



12年目のひとり言
～コムスン問題から～



皆さんもご承知の通り、介護事業最大手であるコムスン社の介護保険の不正受給問題が発覚し、コムスン社は介護事業から撤退することになった。今回の問題は、東京都福祉保健局が都内の介護サービス事業者の監査結果を公表し、訪問介護事業者の大手3社、コムスン、ニチイ学館、ジャパンケアサービスが介護報酬を過大に請求していたという事実が発覚したことに端を発している。その後、コムスン社の不正が次々と暴露され、マスコミが連日、この問題を取り上げ、コムスン社・折口会長の顔をTVで見ない日はないほどだった。一方、他の2社については、その後大きく取りざたされた形跡は無い。この辺りにやや作作的なものを感じる。不正問題ばかりがクローズアップされているが、コムスン社は「24時間介護サービス」や「重度障害者の介護」等、他の企業が余り行っていないサービスを提供している事も事実である。利益至上主義だから出来たサービスと言ってしまうとそれまでだが、これらのサービスによって救われている人たちがいることも忘れてはならない。いずれにせよ企業としての介護事業に取り組む姿勢に問題があったことは確かである。民間企業とは言え、介護という特殊な事業を扱う以上、企業利益だけを優先させる考え方は通用しない。また、介護保険制度そのものにも問題が多く、介護を受ける必要のある人たちのニーズに沿った制度であるとは言い難い。介護現場は、その重労働と低賃金であるが故に、人材の定着率も低いと聞いている。多くの市民活動団体もこの分野で活躍しているが、それだけではすべてのニーズを満たしていくことは出来ない。行政、企業、NPOがそれぞれの立場から介護を受ける人たちのニーズを第一に考えた制度づくり、サービスの提供を行うことが大切なのではないかと思う。

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員 個人 40名 団体 5名

賛助会員 個人 133名 団体 14名

(2007年6月末現在)

寄付・募金合計金額 1,178,714 円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

ぼたんの会実行委員会、(社)神戸青年会議所、
オレンジスリフティ

(2007年4月～2007年6月)

皆様に、心よりお礼申し上げます。

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000 円
団体会員 年間 10,000 円



お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892
みなと銀行 本店営業部 普通 1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854
郵便振替 00990-5-157334
口座名義 「しみん基金・こうべ」

あ と が き

巻頭コラムにもある「ファンドレイジング」という言葉が、どれくらい浸透しているのでしょうか？直訳で「資金調達」なのですが、NPO で使う場合は支援者からの寄付集めということになります。最近、日米の寄付文化のちがいの研究が進められ、その中で「ファンドレイジングはフレンドレイジングである。」とよく言われています。つまり、支援者との間に丁寧な関係を構築していくことが寄付集めの第一歩である、ということなのです。受益者へのサービス提供だけで目一杯で、このことができていないのが、日本のNPOに寄付が集まらない原因ということだそうです。(え)

次号の予告(2007年9月発行予定)

- ・平成19年度助成事業中間報告
- ・その他の今年度事業の進捗報告